

黄色ブドウ球菌(*Staphylococcus aureus*)とは、

- グラム陽性球菌、通性嫌気性菌 で、至適発育温度 35～40℃ (20℃近くでも増殖可能) で、耐塩性(10%NaCl 存在下で増殖可能) である。
- 自然界に広く分布し、生体外では空気、水、酪農品から分離され、ヒトや動物の皮膚、鼻咽腔粘膜、腸管内に常在する。
- コアグララーゼ、白血球破壊毒素 (Panton-Valentine: PVL)、溶血毒など・・・化膿症
- エンテロトキシン (SE: Staphylococcal enterotoxin)・・・食中毒
- 剥脱性毒素 (exfoliative toxin)・・・剥脱性皮膚炎 (ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群 (SSSS)、水疱性膿痂疹、ブドウ球菌性猩紅熱など)
- 毒素性ショック症候群毒素 (TSST-1)・・・毒素性ショック症候群
他に肺炎、腹膜炎、敗血症、髄膜炎などの様々な重症感染症の原因となる。
- コアグララーゼ (coagulase) 産生能: 血漿凝固作用。病原性の強い黄色ブドウ球菌と他の菌 (CNS) との鑑別に用いられる。

MRSA とは、

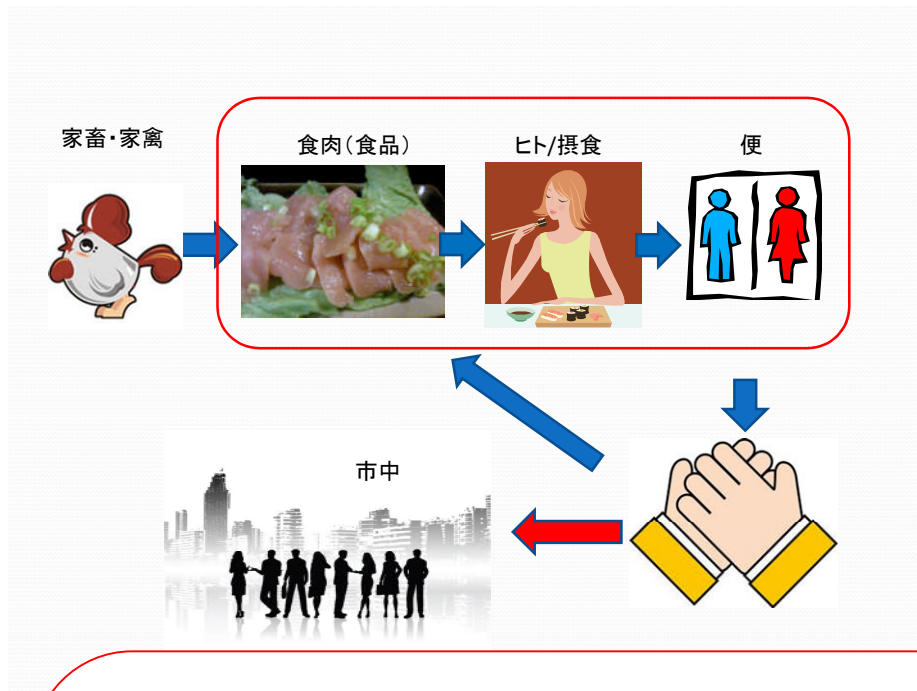
Methicillin resistant *Staphylococcus aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の略

- メチシリン (ペニシリナーゼ抵抗性ペニシリン) が使用され始めた翌年 (1961 年) より出現し、わが国でも、1980 年頃から病院内感染が急増した。
- 耐性機序は、*mecA* 遺伝子がコードする PBP2' (細胞壁合成酵素; Penicillin Binding Protein 2 prime) というペニシリン低親和性の酵素を産生することによって耐性を獲得し、*mecA* 遺伝子は外来性遺伝子 Staphylococcal cassette chromosome *mec* (SCC *mec*) に存在する。
- MRSA の定義は、*mecA* 遺伝子を保有するか、オキサシリン MIC 4.0µg/ml 以上の黄色ブドウ球菌である。
- 院内型 MRSA (HA-MRSA) と市中型 MRSA (CA-MRSA) が問題になっている。

CA-MRSA の定義は、

家庭や学校、職場など通常医療現場と接点のない市中において分離される MRSA で、CDC ガイドラインに示された HA-MRSA の代表的 ①過去 1 年以内の入院歴 ②長期療養施設への長期入院 ③透析 ④カテーテル等の留置 ⑤抗菌薬使用などのリスク因子に該当しないこと。

【研究仮説として】



検査材料

調査期間: 2003年4月から2009年3月

調査対象	検体数	黄色ブドウ球菌陽性検体数	MRSA 陽性検体数	市中型MRSA
市販流通食肉	197	47	3	3
		23.9%	1.5%	
下痢症患者便	1,287	174	11	9
		13.5%	0.9%	
	1,484	221	14	12

調査項目

様々な菌学的な解析

- コアグララーゼ型
- エンテロトキシン型
- Spa Typing
- MLST
- PFGE 法
- POT 法など

